

まえがき

弘前大学の1年生を対象とした情報処理演習のために「ビギナーのための情報リテラシー」[?]を刊行してから、早くも10年近くが経過しようとしています。演習で使用している総合情報処理センターのパソコンシステムには、当時、マイクロソフト社のWindows 95がOSとして搭載されており、前著には少なからずWindows 95に特化した部分が含まれていました。その後現在に至るまで、総合情報処理センターのシステムも何度か更新され、現在では演習用パソコンのOSはWindows XPとなっており、内容的に対応していない部分が増えてきました。さらに、この10年余りに我々をとりまくコンピューティング環境は大きく変化し、とりわけLinuxに代表されるような、基本的に無料で利用できるオープンソースソフトウェア(OSS)の普及には目をみはるものがあります。独立行政法人化後の国立大学の運用資金の削減とあいまって、多くの大学が情報処理システムにOSSを導入するようになってきています。本学も例外ではなく、現時点ではWindows XPとLinuxとの併用システムになっていますが、近い将来、オープンソースのみの環境に移行するかもしれません。

そこで今回、商用のソフトウェアに依存した部分をできるだけなくして、OSS、もしくはフリーソフトを利用して演習を実施できるような内容に改訂しようということになり、本書刊行の運びとなりました^{†1}。ただし、本学の情報処理演習で主に使用されるOSはWindows XPであることから、ログイン・ログオフなどの基本操作に関するいくつかの部分でWindows XPに依存した内容が残されています。

OSSを利用するといってもまったく新しい内容を盛り込むということではなく、前著に含まれている演習の内容をOSSを利用して展開できるように書き換えるという点に主眼がおかれており

必要な場合にコンピュータを有効に活用し、責任をもって情報を扱う能力を養う

という、前著で掲げられている姿勢もそのまま踏襲されています。また、本書で取り上げているOSSは、Windows XPとLinuxで共通して使用できるものが多く、Linuxを用いた演習に

^{†1}本書では都合によりオフィス関係のソフトウェアとしてStarSuiteが用いられていますが、ほぼ同等のものがOpenOffice.orgとして無料で入手可能です。

授業計画	学習箇所	使用ソフトウェアなど
1 回目	第 2 章 基本操作	Windows XP
2 回目	第 3 章 文書の作成・編集・印刷	StarSuite Writer
3 回目	第 7 章 インターネット (電子メール)	Active!mail
4 回目	第 4 章 画像と音声	GIMP, StarSuite Draw, サウンドレコーダ
5~6 回目	第 5 章 表計算とグラフ作成	StarSuite Calc
7~8 回目	第 6 章 プレゼンテーション	StarSuite Impress
9 回目	第 7 章 インターネット	Firefox
10 回目	第 8 章 JavaScript プログラミング	Firefox
11 回目	第 9 章 データベース	StarSuite Base
12 回目	第 10 章 L ^A T _E X による文書処理	L ^A T _E X2 ϵ , KWinTeX
13 回目	第 11 章 アクセシビリティ	Windows XP, Firefox, WebInspector, ColorSelector
14 回目	第 12 章 数式処理	Maxima
15 回目	情報セキュリティ・情報倫理	関連図書の [?], [?] など

も利用していただけるのではないかと考えています。

この 10 年余りに大きく変化したのはコンピューティング環境だけではありません。非対称デジタル加入者回線 (ADSL) や光回線、ブロードバンドの普及等により、一般家庭においてインターネットが容易に利用できるようになったことも特筆に値します。

家庭にいながらにして世界中のさまざまな Web サイトにアクセスすることができるようになり、また、動画像などの大容量データを高速にダウンロードすることが可能になりました。さらに、インターネットを利用した銀行取引、インターネットショッピングなど、生活に密着したサービスを受けられるなど、インターネットの家庭への浸透によって便利になった点を挙げれば枚挙にいとまがありません。

しかしその一方で、コンピュータウイルスの蔓延やファイル共有ソフトを介した情報漏洩、ネットショッピングなどにおけるトラブル、ネットオークションを利用した詐欺など、それまでにはあまり意識しなくても済んでいた新たな危険にさらされることになりました。それらの危険から身を守るために、情報セキュリティや情報倫理の教育が重要になってきていますが、残念ながら今回の改訂ではそれらの内容を盛り込むことは難しく、その部分は他の教科書を併用することでカバーしようということになりました^{†2}。次回の改訂の際には、ぜひともそれらの内容を加え、完成度の高い教科書にしていくことを目指したいところです。

上に掲げる表は、本書を半期の授業のテキストとして使用する場合の授業計画の例です。この 10 年の間に、高等学校においても「情報」が必修科目として位置付けられ、新入生はそれ相応の技術と知識をもって大学に入学してくるであろうと想定されます。そのため、基礎的な技術の修得に重点がおかれていた前著では進歩的な部分として「選択」となっていたところが、本書ではすべて必修となっています。しかし、必要な内容は学部や学科で異なる上に、学生の理解度や技術の習熟度にも大きな個人差があるであろうことが予想されるので、適宜、取捨選

^{†2} 本学では、関連図書の [?] や [?] を使用しています。

択してください。第1章については、あらかじめ学生に目を通しておいてもらうか、演習時間に余裕が出た場合に少し触れる程度でよろしいかと思います。また、「情報セキュリティ・情報倫理」を15回目に入れてありますが、場合によってはもっと早い回に実施する必要があるかもしれません。状況に応じて判断して下さるようお願いいたします。

最後に、教育用システムの円滑な運用を支えている総合情報処理センターの須藤 勝弘、小倉 広実の両氏、および技術補佐員の皆様には厚く御礼申し上げます。

2008年3月

著者を代表して 水田智史